

＝脳外傷・脳梗塞・脳出血による脳障害＝

こうじのうきのうしょうがい
高次脳機能障害って？

＝外見上わかりにくい障害＝

事故などによる脳外傷や脳梗塞・脳出血、くも膜下出血といった脳血管障害・低酸素脳症で脳が損傷し、怒りっぽくなったり、物覚えが悪くなったり、何かにこだわりすぎるなど、今までになかった症状（言語・思考・記憶・行為・学習・注意）が現れる事があります。これを**高次脳機能障害**といいます。

この障害の問題は外見からは判りにくく、どこまでが正常で、どこまでが異常かの判断が困難な事です。障害が、もともとの性格かの境界は、脳が損傷したかどうかにあります。

すなわち、脳の障害が原因で、周囲からの知覚入力に対して、適切な認識や行動表現が出来なくなった状態のことです。

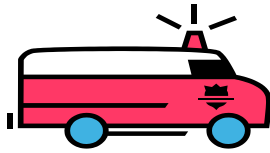
どうしよう、どうすればいいんだろう！
将来がとても心配だ、
など自分ひとりで悩んでないで相談してください。



高次脳機能障がい徳島家族会「すだち」

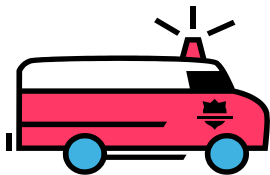
《連絡先》 〒770-8006 徳島市新浜町3丁目1-60

《電話》 088-662-4776 (岩垣方)



外見上わかりにくい障害

●記憶障害	物の置き場所を忘れ、新しいできごとを覚えられなくなる。そのために何度も同じことを繰り返し質問したりする。
●注意障害	ぼんやりしていて、何かをするとミスばかりする。二つのことを同時にしようとすると混乱する。
●遂行機能障害	自分で計画を立ててものごとを実行することができない。人に指示してもらわないと何もできない。いきあたりばったりの行動をする。
●病識欠落	自分が障害を持っていることに対する認識がうまくできない。障害がないかのようにふるまったり、言ったりする。
●社会的行動障害	すぐ他人を頼る、子供っぽくなる(依存、退行)、無制限に食べたり、お金を使ったりする(欲求コントロール低下)、すぐ怒ったり笑ったりする、感情を爆発させる(感情コントロール低下)、相手の立場や気持ちを思いやることができず、良い人間関係が作れない(対人技能拙劣)、一つのことにこだわって他のことができない(固執性)、意欲の低下、抑うつ、など。



症状を引き起こす原因

- (1) 頭部外傷 交通事故等による硬膜外血腫、硬膜下血腫、脳挫傷、脳内出血、びまん性軸索損傷
- (2) 脳血管障害 脳内出血、脳梗塞、クモ膜下出血、もやもや病
- (3) 感染症 脳炎、エイズ脳症
- (4) 自己免疫疾患 全身性エリテマトーデス、神経ベーチェット病
- (5) 中毒疾患 アルコール中毒、一酸化炭素中毒、薬物中毒
- (6) その他 多発性硬化症、正常圧水頭症、ビタミン欠乏症、脳腫瘍

高次脳機能障害に対する 理解を深めるために

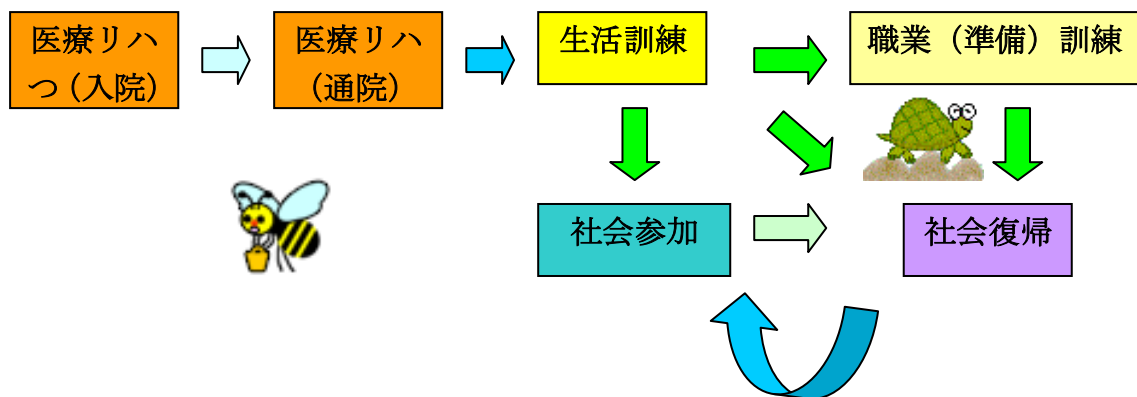
ある日突然、交通事故などで家族が意識不明の重体になったら？
退院したけれど「何か変だ！」どうしたらいいの？

高次脳機能障害は、現在の障害者福祉制度上での適切な対応が得られないという側面を持った障害でもあります。まさに、医療と福祉のはざまに置かれた「見えない障害」または「隠れた障害」です。

医療や福祉の分野でまだ理解が広がっていないため、支援の実態が把握しづらく、支援の方法が普及していないなど、課題はたくさんあります。当事者やその家族が声を上げていくことで理解され、課題解決に結びつくものと考えます。

支援の方法

受傷（発症）から社会参加まで



高次脳機能障害の症状は、環境や条件によって現れ方が異なるといわれています。個々障害に対する対応はそれぞれ異なりますが、対応の基本的な考え方は、周囲がこの障害と対応の基本（追い詰めない、代替手段を身に着ける、単純な環境を作る、要件はひとつずつ、言葉だけにたよらない）を知り適切な対応に心がけることが大切です。

《協力機関》

徳島県社会福祉士会・徳島県医療ソーシャルワーカー協会・徳島精神保健福祉士会からも支援をいただけることになっていますので、わからないこと、聞きたいことなどご相談ください。

高次脳機能障害 徳島家族会(すだち)への参加を!

自分の大切な家族が、友人が、ある日突然変わってしまう。呼びかけても返事をしない。些細なことで腹を立てる。こだわって人を許せなくなる。約束をすっぽ抜かす。ついさっき言っていたことを忘れてしまう・・・



そんなことが起きたら、家族やまわりの人はひどくショックを受け悩むことでしょう。

しかし、高次脳機能障害は適切な診断とリハビリテーションがなされれば、症状は改善します。

家族会は困難な状況にある当事者、家族が相互に交流することによって、情報を交換し、共に支えあい社会的に不利な条件を改善するために啓発活動、障害発生の予防も視野に置き活動をすることを目的としています。

「**隠れた障害**」と呼ばれているこの疾病問題に行政が動き出したとはいえ、当事者、特に患者を抱える家族が声をだし、障害の実態を訴えないと、理解を得ることは困難です。家族会では各関係機関に働きかけ問題解決に取り組んでいます。

家族会の取り組みの基本

高次脳機能障害者を抱える家族は、家族自身が理解を深める事とあわせて、障害の実態を訴え、高次脳機能障害という疾病の理解を求めると同時に、当事者の社会復帰に向けた取り組みを医療関係者、行政機関の協力を得ながら進めていく事とします。



- 1、当事者・家族を中心に学習会の開催と、家族会への参加を呼びかけます。
- 2、医療機関、行政機関へ働きかけを行います。
- 3、高次脳機能障害を広く訴える取り組みを行います。
- 4、当事者の社会復帰に向けた取り組みを進めます。
- 5、季刊誌の発行を行い家族間の情報を共有します。